

# 令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:7月31日(月)

会場:作木山村開発センター

参加者数:59人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>・広域林道作木大和線にある横断溝では、グレーチングの上にゴミや石が詰まっているため、水が下に落ちず、道路上を水が流れていく。そのため、下の段にいき、道路を削ってしまう。また、水により、道路のセメントの下が洗われて、除雪機械によってコンクリートが割れてしまう。横断溝と90センチ角のグレーチングはつながっており、横断溝の元から水を排出するが、その箇所から水が流れていない。横断溝の元のところに土が溜まっていることから、コンクリートで固めるなど、グレーチングの上に土が落ちないようにしてほしい。作木地区では、山が崩れて落ちてきた土や落ち葉により、U字溝が詰まってしまう、道路上にコロコロとした石が残される。一方、島根県側はきれいな道路であることから、検討してほしい。</p> <p>・横断溝については、セメントやブロックが両サイドに積んであるが、それがない部分もあり、どうしてそのような設計になっているのか。</p>	<p>・広域林道作木大和線の横断溝に関して、作木町の特徴として道路の側面に山が切り立っており、硬い石がぼろぼろと落ちてくるという、作木の特異な地形や地質が関係しているのではないかと。最近では、イノシシやシカが山を崩していくため、側溝が詰まっているという状況は承知している。町内の至るところにそのような箇所があり、これを一斉に除去するのは、予算的にも大変厳しい。特に、気になる箇所があれば、作木支所へ個別に相談してほしい。今回の広域林道については、先日、農政課が現地確認しており、解消に向けて検討している。</p> <p>・広域林道における横断溝の設計自体については、農政課と協議を行い、設計に不具合があれば検討させていただきたい。</p>	
<p>昔から作木地区は、山水が豊富にあり、池もあった。しかし、この3月に水が来なくなった。20年前の両国トンネルの工事が原因であると、県の職員も言っていた。水がなくなると、ボーリングをして対応する方もおられ、あちこちで穴があくようになった。60センチの穴ができ、地盤沈下が発生している。</p>	<p>両国トンネルができて水が少なくなったことや、穴があいていくことと、トンネルの掘削との因果関係はわからない。広島県とも相談して、調査が必要があると思うが、両国トンネルができて20年近く経とうとしていることから、作木支所で建設経緯を調べる。</p>	
<p>最近、クマの出没が多い。箱わなを設置したところ、クマに壊された。クマの駆除を検討してほしい。</p>	<p>令和3年度までは、中国山地の西部において、ツキノワグマが保護されていた。しかし、近年、クマの出没や、クマによる被害が各地域で起きていることを踏まえて、広島県でもクマの生態系を適切に戻すように取り組んでいる状況である。猟友会や広島県と連携していく。クマが出没して人に被害が及ぶことが一番懸念されることから、クマを目撃した際には、作木支所や農政課に情報を提供してほしい。</p>	
<p>作木地区は、水田の荒廃地が年々増えている。対策をしてほしい。</p>	<p>田んぼの荒廃は、全国的な問題になっている。作木地区では、国の施策である、「地域計画」の策定に取り組もうとしている。これは、個人所有の田んぼを広く面的に管理し、休耕地も含めた農地の新たな担い手を育成支援していくという計画である。例えば、自分の農地は管理できているが、周りの農地が荒廃すると、そこがイノシシやシカの住処になり、耕作している農地が荒らされる。今回の地域計画は、農地所有者の意向を確認するためにアンケートを行い、今後、自分で作っていくのか、人に預けるのか、法人に預けるのかというような、農地の将来的な管理意向を確認し、農地を面的に管理しようとするものである。ぜひ協力してほしい。</p>	
<p>・地域を元気にする事業に補助金を出されているが、先日、まちづくりの補助金が地域にも割り当てられていると聞いた。使い道が決まっているが、地域で考えていかなければならないと思う。地域のにぎわいを元に戻したいが、補助金が活用しにくいので、補助金を使いやすいようにしてほしい。</p> <p>・地域の集会所は、避難場所に使用するなどしたいが、地域だけでは維持ができない。あと10年もすれば、地域の集会所を維持できない。作木地区だけでなく、三次市街地から離れた地域では大変になると思う。10年先のことを思い、地域を維持するために、みんなで考えなければならぬ。三次市の方向性を早めに出してほしい。</p> <p>・コロナによって行事がなかったことで、予算が余っており、集会所を維持・運営できていた。その中で、電気代や浄化槽の管理にお金がかかる。浄化槽については、年間で12万円ほど必要となり、全体管理費として50万円かかる。イベントが再開すると、大津地区の財政では、ここ3、4年で集会所を維持・運営できなくなる。地域の者も年を取り、常会の戸数も減る中、年会費を急に上げていくことはできない。これまで、活動費は明確にすれば何に使ってもよかったが、集会所の維持・運営・修繕には使うことができなくなった。地域として計画を立てて活動しようにも、活動費に充てることができるかわからないし、制約が多すぎる。活動費として、地域がどのように使ってもいいのではないかと。地域としては、集会所を譲渡されている以上、維持・管理をしなければならぬが、今後、先が見えず、どうすればいいのかわからない。浄化槽から簡易水洗に変更することができるか相談したが、難しいという答えであった。</p>	<p>今の集会所の維持については、今後、地域の拠点として重要となる。10年後、さらにその先の地域、あるいは集落を維持していくためには、どのような制度設計をすればいいのかが、地域振興部や住民自治組織としっかりと協議をする中で、持続可能な地域につながるように検討していきたい。住民自治組織に交付金を支援しているが、今後も、限られた財源の中で、柔軟な制度設計をしていきたい。集会所の維持については補助事業が他にもあることから、今後紹介をしていく。個別・具体的なことについては、今の意見をもとに、今後の参考にさせていただく。</p>	

# 令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 7月31日(月)

会場: 作木山村開発センター

参加者数: 59人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>岡三洲地区には、2世帯が入れる住宅があるが、元々は農業をするためにつくられた住宅である。現在、一人入居されているが、市が売却すると聞いた。その方が購入しないとどうなるのか。知り合いが、定年退職後、岡三洲地区に移住したいと言っており、住居を探している。高齢化し、地域行事ができない状況である中、移住しようと思っている人がおり、楽しみにしていた。どうして住宅を売り出すことになったのか。</p>	<p>全般的な話として、市営住宅は、住宅に困窮されている方のために、一定程度の必要な施設数を維持していくものである。数的に余裕がある地域においては、老朽化したものから解体したり、住んでおられる方に譲渡している。ファシリティマネジメントの観点から、処分できるものから処分していく方針である。岡三洲地区の建物は農業体験をする方のための建物であったが、固定的にお住まいの方がおられることは承知している。大きな流れの中で、今住んでおられる方が譲渡を受けてくだされば、売却する、もしくは譲渡させていただく。ただ、これは強制ではない。本人と市でしっかり話し合いをさせていただき、対応していく。</p>	<p>※担当課で説明済。</p>
<p>県道大津横谷線には、4トントラックやマイクロバスが通れない。草木が山側からはみ出している。</p>	<p>県道大津横谷線については、道路の両側から木が生い茂っており、背の高い車であると枝が当たるといった状況であることは承知している。ひどい箇所については、職員が、高枝チェーンソーで切っているが、全ての路線について職員が枝を切っていくことは難しい。個別にひどい箇所があれば、作木支所に教えてほしい。</p>	
<p>畠敷地区に住んでいるが、実家は作木地区である。元気な三次づくりのため、旧町村の人に一人100万円を配布し、旧三次の人には50万円を配布するというのはどうか。私たち市民の生活向上につながるような事業はほとんどない。不便なところでも、そこに住むにはそれなりの事情がある。作木地区に住んでよかったというメリットを作してほしい。例えば、固定資産税の非課税、ガソリン燃料代の補助、電気代の補助などが考えられる。19地区の住民自治組織に対して交付金を出しているが、それでは何もできない。まず、地元のことは地元で考えることができれば、お金を出してほしい。合併時から人口が減っているにもかかわらず、予算は減っていない。そして、市民生活は良くなっていない。10年先を考えて、膝を交えて本音で話してほしい。作木地区で生活するために、行政がよく考えて、行政がすべきことはしてほしい。私たちも協力できることは協力をする。</p>	<p>・住民自治組織の交付金や、1人当たり50万円、100万円という提案があったが、できることとできないことがあることをわかっていただきたい。その中で、今後、三次市を魅力ある地域にするためには、それぞれの地域の魅力や個性をしっかりと引き出すことが重要である。また、小学校、中学校の子どもたちにもふるさとが、どれだけかけがえのないものかという教育を進めている。 ・行政としても、行財政改革をして、事業を精査してきている。今後においても、必要な事業、あるいは見直した方がいい事業について、第三者の評価をいただきながら、しっかりと精査をしていく。そして、適切な予算規模で、市民にとって何が必要な事業なのかというのを見極めた上で、予算編成をしていきたい。このような機会を通じて、地域の皆さんの声を聞き、市政運営の参考にさせていただく。</p>	
<p>鳥獣被害が増えている。以前は、家の周りでイノシシなどを見かけなかったが、近隣でよく見かけるようになった。協議会や勉強会などを開催して、これからの鳥獣被害対策への検討をしてほしい。以前は、クリの木やマキ・カシなどの実がなる木があり、スギやヒノキはほとんどなかった。行政が、膨大な面積に植林をされ、山の食べ物が無くなったことから、農作物の被害が出ている。</p>	<p>三次市有害鳥獣駆除対策協議会では、市や関係団体が集まり、鳥獣被害の状況を把握している。三次市全体の被害額は、令和3年度と令和4年度を比較すると減少しているが、作木地区だけの数値は定かではない。今後、鳥獣を駆除する団体と連携して、被害の減少に向けた取組を見出していきたい。駆除班が高齢化して、駆除が難しい地域もあり、抜本的な解決が必要であることは承知している。三次市有害鳥獣駆除対策協議会としっかりと連携しながら、取組を進めていきたい。鳥獣被害対策については、農政課が担当であり、ICTを活用した捕獲について支援しており、効果の出ている地域もある。引き続き、いろいろな地域で支援をしながら、鳥獣被害額の減少に向けて、取り組んでいく。今のところ、これをすればいいという効果的な対策を見い出せていないことから、他事例を参考にしながら、取組を進めていきたい。</p>	
<p>国道54号の三次病院から日下のあたりにおいて、舗装道路に雨水が浮いている。道路への雨水によって川の水が増えている。他にも、周辺で、水が出ていると聞く。水を染み込ませる対策が必要ではないか。島根県に比べたら、三次管内ではあちらこちらで水が溜まっており、トラックが走ると大量の水が飛んでいくので、道路の管理をしてほしい。</p>	<p>引き続き、路面保全事業などをしながら、対応することになるが、抜本的な対策が必要な箇所については、作木支所に情報を提供していただいて、水が溜まっている箇所の解消対策を練っていききたい。一律的に全てを良好な道路環境にすることは難しいことから、優先順位をつけながら対応を進めていきたい。</p>	
<p>G7サミットで活用されたワインビーフについて、初めて聞いた。今後、三次市としてブランド化していくのか。</p>	<p>三次ワインビーフは、のぼ牧場が生産しており、三次ワイナリーでワインを作る過程で出たぶどうの搾りかすを牛の飼料に入れている。肉質が良くなり、広島県内の和牛の大会でも、毎年のように入賞されたり、5年に1度開催される全国和牛能力共進会でも入賞されている。このような地産地消による持続可能な取組を政府関係者に評価していただいたからこそ、今回のG7サミットでご利用いただいたものと思っている。今後、農家と意見交換をしながら、一次産業の所得の拡大につなげていく。</p>	<p>※三次ワインビーフは令和4年度にみよしブランドに認定。</p>